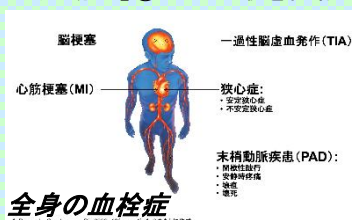


～心臓血管センターからのお知らせ～



心臓血管センター医師のお話⑥
『全身血管病のお話』

「人は血管と共に老いる」。これは米国の内科医ウィリアム・オスラー博士の有名な言葉です。血管の老化は主に「アテローム性動脈硬化症(動脈硬化)」が原因となります。「動脈」とは全身に血液を供給する血管ですが、加齢により、少なからずこの「動脈硬化」は全身の血管(=動脈)におこってきます。動脈硬化の好発部位で重要な血管が①心臓へ血液を供給する「冠動脈」②脳へ血液を供給する「頸動脈」③足へ血液を供給する「下肢動脈」です。いずれの血管も動脈硬化がすすんで内腔が狭くなります(狭窄といいます)供給する先の臓器に血液が不足する現象、「虚血」がおこります。



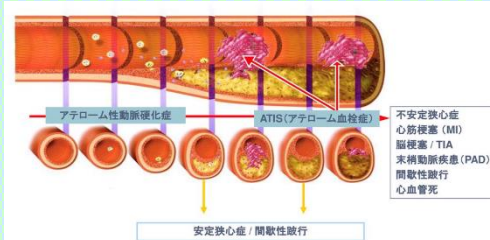
全身の血栓症

さらに血栓が生じると(アテローム血栓症)、血管が閉塞してしまいます。心臓の虚血は狭心症や心筋梗塞の原因となり、脳の虚血は脳梗塞の原因に、下肢などの虚血は末梢動脈疾患という病気をおこします。

当然、動脈硬化は全身におこってきますので、これらの臓器虚血の病気は同じ方が複数罹患していることも多いです。例えば脳梗塞で入院して調べてみると心臓の冠動脈が狭くなっていて、心筋梗塞になりかかっていた…のような方も多くみられます。そこで、「全身血管病」という考え方が重要になります。

動脈硬化は傍目には見えず、また一般的な採血やレントゲンなどの検査では非常に分かりにくいので、早期発見のためにはより積極的な血管系の検査が必要となります。

早期発見のポイントは、まずは動脈硬化のリスク因子を知ることです。特に「高血圧症」「脂質異常症」「糖尿病」「喫煙者」「肥満」「透析」の方は動脈硬化が進みやすいため注意が必要です。そのため、特に複数のリスクを持つ方には、年に1回程度、定期的に簡便な動脈硬化の検査をおすすめしております。



動脈硬化の進展と血栓症

外来にて「ABI測定」「頸動脈エコー」を施行することで簡単に動脈硬化を調べることができます。ABI測定では上下肢動脈の血流を調べることができ、頸動脈エコーでは頸動脈を直接超音波検査で観察することができます。

また、リスクの特に高い方などは、CTにより心臓の冠動脈の状態を調べることもできます。ABI測定や頸動脈エコーを行う事で動脈硬化の早期発見につながることも多く、そこから心筋梗塞や脳梗塞といった大きな病気の発症を未然に防ぐことも可能です。

当院では、よりスムーズに血管系の検査を行うため、「バスキュラーラボ」を開設しました。当院通院中の方はもちろん、どなたでもお気軽に当センターへ御相談ください。



「足関節上腕血圧比(ABI)」のお話

臨床検査部 土屋

突然ですが、皆さんは足の血圧を測ったことがありますか？通常、足の血圧は腕の血圧よりも高いのですが、動脈硬化によって足の血管内に狭い部分や詰まりがあると、血流が悪くなり、足の血圧の方が低くなります。ABIとは、腕と足首の血圧を測ることで、足の動脈硬化の有無を調べる検査です。



例えば「しばらく歩くと足腰に痛みやしびれが起き歩けなくなる、休憩するとまた歩けるようになる」といった症状がある場合、整形外科を受診する方もいらっしゃると思いますが、実は足の動脈硬化が原因の可能性もあります。「そういやあそんな症状あるかも？」と思った方は、ぜひ心臓血管センターに相談してみてください。



検査の流れは、

- ①上は肌着一枚、下は靴下やストッキング・裾が締まるようなズボンや下は脱いでいただき、仰向けに寝ます。
- ②左右の上腕・足首に血圧を測るカフ(血圧を測る時に腕に巻く道具の名称です)を巻きます。
- ③手足の血圧を測定していきます。

検査時間は準備も入れて10～15分ほどです。

もし透析治療で腕にシャントを造設していたり、過去に手術で手足に人工血管・金属を入れている方は、事前に担当スタッフに申し出て下さい。

安心して検査を受けていただけるよう心がけていますが、もし不安なことがあればお気軽に検査スタッフにお声がけください。

お知らせ

※次回は来年2月発行予定、心臓血管センター医師から『家族性高コレステロール血症のお話』と、事務部から『高額医療費の世帯合算のお話』予定です。